

本資料は、以下の問題に対する対応例を表形式で示しています。

問題点:
疎通確認はできました。しかし、HULFT Windows→メインフレーム(又はミッドレンジサーバ)の転送で文字化けします。

確認事項1: 通信相手は、下記のうちどれですか?

1	IBMのメインフレーム	z/OS	ゼットオーエス
2	富士通のメインフレーム	OSIV/MSP(MSP-EX)	エムエスピー
3	富士通のメインフレーム	OSIV/XSP(XSP)	エックスエスピー
4	日立のメインフレーム	VOS3/US(VOS3)	ボススリー or ボスサン
5	IBMのミッドレンジサーバ	IBM i(AS/400)	アイビーエムアイ or エーエスヨンビヤク

確認事項2: 文字化けの事象は、下記のうちどれですか?

1	シングルバイト(半角)文字の英小文字が化ける
2	シングルバイト(半角)文字の半角カナが化ける
3	シングルバイト(半角)文字が英字、カナ両方化ける
4	マルチバイト(全角)文字が化ける
5	マルチバイト(全角)文字の中に"□"が入る
6	シングルバイト(半角)、マルチバイト(全角)問わず文字化けする

対応表

確認1	確認2	チェック1	チェック2	チェック3
1	1	WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →"通信相手のホスト名"をダブルクリック 下記設定となっているか確認 (左側が基本設定) ホスト種 →"汎用機" 漢字コード種→"IBM" JIS年度 →"83JIS"	WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →配信管理情報(S) →"問題のファイルID"をダブルクリック 配信管理情報は、転送するファイル名、文字コード変換有無を指定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定) 転送タイプ →"TEXT" コード変換 →"配信側" 転送グループID→"xxx"メモする (左側が拡張設定) EBCDICコードセット→IBM英小文字拡張 EBCDICコードセット→IBM英小文字 EBCDICコードセット→英小文字	配信管理情報の転送グループID→ 転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報が つながっているか確認する
1	2	WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →"通信相手のホスト名"をダブルクリック 詳細ホスト情報には、通信相手の属性を設定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定) ホスト種 →"汎用機" 漢字コード種→"IBM" JIS年度 →"83JIS"	WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →配信管理情報(S) →"問題のファイルID"をダブルクリック 配信管理情報は、転送するファイル名、文字コード変換有無を指定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定) 転送タイプ →"TEXT" コード変換 →"配信側" 転送グループID→"xxx"メモする (左側が拡張設定) EBCDICコードセット→IBM英小文字拡張 EBCDICコードセット→カナ文字	配信管理情報の転送グループID→ 転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報が つながっているか確認する
1	3	WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →"通信相手のホスト名"をダブルクリック 詳細ホスト情報には、通信相手の属性を設定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定) ホスト種 →"汎用機" 漢字コード種→"IBM" JIS年度 →"83JIS"	配信管理情報の転送グループID→ 転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報が つながっているか確認しましょう。	
1	4	WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →"通信相手のホスト名"をダブルクリック 詳細ホスト情報には、通信相手の属性を設定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定) ホスト種 →"汎用機" 漢字コード種→"IBM" JIS年度 →"83JIS"	配信管理情報の転送グループID→ 転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報が つながっているか確認しましょう。	

確認1	確認2	チェック1	チェック2	チェック3
1	5	<p>Windows側の配信ファイル内にJIS第一水準、JIS第二水準以外の機種依存文字があります。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> 丸囲い数字・① (0x8740) ローマ数字・Ⅱ (0x8755 or 0xFA4B) 旧字・黒 (0xFC4B) 略字・罫 (0x878A) <p>特にローマ数字は、(見た目が同じでもバイナリでは)2種類あります。 HULFTの外字変換の設定を施し、再度テストを実施してください。</p> <p>参照</p> <ul style="list-style-type: none"> HULFT7 Windows アドミニストレーション・マニュアル 3.9 外字テーブルについて 3.4.4 各項目の説明 外字テーブル使用(gajifile) 		
1	6	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →“通信相手のホスト名”をダブルクリック</p> <p>詳細ホスト情報には、通信相手の属性を設定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホスト種 →“汎用機” 漢字コード種→“IBM” JIS年度 →“83JIS” 	<p>配信管理情報の転送グループID→転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報が つながっているか確認しましょう。</p>	
2	1	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →“通信相手のホスト名”をダブルクリック</p> <p>下記設定となっているか確認 (左側が基本設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホスト種 →“汎用機” 漢字コード種→“JEF” JIS年度 →“83JIS” 	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →配信管理情報(S) →“問題のファイルID”をダブルクリック</p> <p>配信管理情報は、転送するファイル名、 文字コード変換有無を指定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 転送タイプ →“TEXT” コード変換 →“配信側” 転送グループID→“xxx” メモする <p>(左側が拡張設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> EBCDICコードセット→ASCII EBCDICコードセット→英小文字 	<p>配信管理情報の転送グループID→ 転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報が つながっているか確認する</p>
2	2	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →“通信相手のホスト名”をダブルクリック</p> <p>詳細ホスト情報には、通信相手の属性を設定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホスト種 →“汎用機” 漢字コード種→“JEF” JIS年度 →“83JIS” 	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →配信管理情報(S) →“問題のファイルID”をダブルクリック</p> <p>配信管理情報は、転送するファイル名、 文字コード変換有無を指定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 転送タイプ →“TEXT” コード変換 →“配信側” 転送グループID→“xxx” メモする <p>(左側が拡張設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> EBCDICコードセット→カナ文字 	<p>配信管理情報の転送グループID→ 転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報が つながっているか確認する</p>
2	3	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →“通信相手のホスト名”をダブルクリック</p> <p>詳細ホスト情報には、通信相手の属性を設定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホスト種 →“汎用機” 漢字コード種→“JEF” JIS年度 →“83JIS” 	<p>配信管理情報の転送グループID→転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報が つながっているか確認しましょう。</p>	
2	4	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →“通信相手のホスト名”をダブルクリック</p> <p>詳細ホスト情報には、通信相手の属性を設定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホスト種 →“汎用機” 漢字コード種→“JEF” JIS年度 →“83JIS” 	<p>配信管理情報の転送グループID→転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報が つながっているか確認しましょう。</p>	

確認1	確認2	チェック1	チェック2	チェック3
2	5	<p>Windows側の配信ファイル内にJIS第一水準、JIS第二水準以外の機種依存文字があります。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> 丸囲い数字・① (0x8740) ローマ数字・Ⅱ (0x8755 or 0xFA4B) 旧字・……・黒 (0xFC4B) 略字・……・縹 (0x878A) <p>特にローマ数字は、(見た目が同じでもバイナリでは)2種類あります。 HULFTの外字変換の設定を施し、再度テストを実施してください。</p> <p>参照 HULFT7 Windows アドミニストレーション・マニュアル 3.9 外字テーブルについて 3.4.4 各項目の説明 外字テーブル使用(gajifile)</p>		
2	6	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →“通信相手のホスト名”をダブルクリック</p> <p>詳細ホスト情報には、通信相手の属性を設定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定) ホスト種 →“汎用機” 漢字コード種→“JEF” JIS年度 →“83JIS”</p>	<p>配信管理情報の転送グループID→転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報が つながっているか確認しましょう。</p>	
3	1	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →“通信相手のホスト名”をダブルクリック</p> <p>下記設定となっているか確認 (左側が基本設定) ホスト種 →“汎用機” 漢字コード種→“JEF” JIS年度 →“83JIS”</p>	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →配信管理情報(S) →“問題のファイルID”をダブルクリック</p> <p>配信管理情報は、転送するファイル名、 文字コード変換有無を指定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定) 転送タイプ →“TEXT” コード変換 →“配信側” 転送グループID→“xxx” メモする (左側が拡張設定) EBCDICコードセット→ASCII EBCDICコードセット→英小文字</p>	<p>配信管理情報の転送グループID→ 転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報が つながっているか確認する</p>
3	2	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →“通信相手のホスト名”をダブルクリック</p> <p>詳細ホスト情報には、通信相手の属性を設定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定) ホスト種 →“汎用機” 漢字コード種→“JEF” JIS年度 →“83JIS”</p>	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →配信管理情報(S) →“問題のファイルID”をダブルクリック</p> <p>配信管理情報は、転送するファイル名、 文字コード変換有無を指定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定) 転送タイプ →“TEXT” コード変換 →“配信側” 転送グループID→“xxx” メモする (左側が拡張設定) EBCDICコードセット→カナ文字</p>	<p>配信管理情報の転送グループID→ 転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報が つながっているか確認する</p>
3	3	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →“通信相手のホスト名”をダブルクリック</p> <p>詳細ホスト情報には、通信相手の属性を設定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定) ホスト種 →“汎用機” 漢字コード種→“JEF” JIS年度 →“83JIS”</p>	<p>配信管理情報の転送グループID→転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報が つながっているか確認しましょう。</p>	
3	4	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →“通信相手のホスト名”をダブルクリック</p> <p>詳細ホスト情報には、通信相手の属性を設定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定) ホスト種 →“汎用機” 漢字コード種→“JEF” JIS年度 →“83JIS”</p>	<p>配信管理情報の転送グループID→転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報が つながっているか確認しましょう。</p>	

確認1	確認2	チェック1	チェック2	チェック3
3	5	<p>Windows側の配信ファイル内にJIS第一水準、JIS第二水準以外の機種依存文字があります。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> 丸囲い数字・① (0x8740) ローマ数字・Ⅱ (0x8755 or 0xFA4B) 旧字・……・黒 (0xFC4B) 略字・……・縹 (0x878A) <p>特にローマ数字は、(見た目が同じでもバイナリでは)2種類あります。 HULFTの外字変換の設定を施し、再度テストを実施してください。</p> <p>参照</p> <ul style="list-style-type: none"> HULFT7 Windows アドミニストレーション・マニュアル 3.9 外字テーブルについて 3.4.4 各項目の説明 外字テーブル使用(gajifile) 		
3	6	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →“通信相手のホスト名”をダブルクリック</p> <p>詳細ホスト情報には、通信相手の属性を設定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホスト種 →“汎用機” 漢字コード種→“JEF” JIS年度 →“83JIS” 	<p>配信管理情報の転送グループID→転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報が つながっているか確認しましょう。</p>	
4	1	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →“通信相手のホスト名”をダブルクリック</p> <p>下記設定となっているか確認 (左側が基本設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホスト種 →“汎用機” 漢字コード種→“KEIS” JIS年度 →“83JIS” or “78JIS” 	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →配信管理情報(S) →“問題のファイルID”をダブルクリック</p> <p>配信管理情報は、転送するファイル名、 文字コード変換有無を指定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 転送タイプ →“TEXT” コード変換 →“配信側” 転送グループID→“xxx” メモする <p>(左側が拡張設定) EBCDICコードセット→ASPEN</p>	<p>配信管理情報の転送グループID→ 転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報が つながっているか確認する</p>
4	2	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →“通信相手のホスト名”をダブルクリック</p> <p>詳細ホスト情報には、通信相手の属性を設定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホスト種 →“汎用機” 漢字コード種→“KEIS” JIS年度 →“83JIS” or “78JIS” 	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →配信管理情報(S) →“問題のファイルID”をダブルクリック</p> <p>配信管理情報は、転送するファイル名、 文字コード変換有無を指定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 転送タイプ →“TEXT” コード変換 →“配信側” 転送グループID→“xxx” メモする <p>(左側が拡張設定) EBCDICコードセット→ASPEN</p>	<p>配信管理情報の転送グループID→ 転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報が つながっているか確認する</p>
4	3	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →“通信相手のホスト名”をダブルクリック</p> <p>詳細ホスト情報には、通信相手の属性を設定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホスト種 →“汎用機” 漢字コード種→“KEIS” JIS年度 →“83JIS” or “78JIS” 	<p>配信管理情報の転送グループID→転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報が つながっているか確認しましょう。</p>	
4	4	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →“通信相手のホスト名”をダブルクリック</p> <p>詳細ホスト情報には、通信相手の属性を設定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホスト種 →“汎用機” 漢字コード種→“KEIS” JIS年度 →“83JIS” or “78JIS” 	<p>配信管理情報の転送グループID→転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報が つながっているか確認しましょう。</p>	

確認1	確認2	チェック1	チェック2	チェック3
4	5	<p>Windows側の配信ファイル内にJIS第一水準、JIS第二水準以外の機種依存文字があります。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> 丸囲い数字・① (0x8740) ローマ数字・Ⅱ (0x8755 or 0xFA4B) 旧字・黒 (0xFC4B) 略字・罫 (0x878A) <p>特にローマ数字は、(見た目が同じでもバイナリでは)2種類あります。 HULFTの外字変換の設定を施し、再度テストを実施してください。</p> <p>参照 HULFT7 Windows アドミニストレーション・マニュアル 3.9 外字テーブルについて 3.4.4 各項目の説明 外字テーブル使用(gajifile)</p>		
4	6	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →“通信相手のホスト名”をダブルクリック</p> <p>詳細ホスト情報には、通信相手の属性を設定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定) ホスト種 →“汎用機” 漢字コード種→“KEIS” JIS年度 →“83JIS” or “78JIS”</p>	<p>配信管理情報の転送グループID→転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報がつながっているか確認しましょう。</p>	
5	1	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →“通信相手のホスト名”をダブルクリック</p> <p>下記設定となっているか確認 (左側が基本設定) ホスト種 →“AS/400” 漢字コード種→“IBM” JIS年度 →“83JIS”</p>	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →配信管理情報(S) →“問題のファイルID”をダブルクリック</p> <p>配信管理情報は、転送するファイル名、文字コード変換有無を指定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定) 転送タイプ →“TEXT” コード変換 →“配信側” 転送グループID→“xxx” メモする (左側が拡張設定) EBCDICコードセット→IBM英小文字拡張 EBCDICコードセット→IBM英小文字 EBCDICコードセット→英小文字</p>	<p>配信管理情報の転送グループID→転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報がつながっているか確認する</p>
5	2	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →“通信相手のホスト名”をダブルクリック</p> <p>詳細ホスト情報には、通信相手の属性を設定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定) ホスト種 →“AS/400” 漢字コード種→“IBM” JIS年度 →“83JIS”</p>	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →配信管理情報(S) →“問題のファイルID”をダブルクリック</p> <p>配信管理情報は、転送するファイル名、文字コード変換有無を指定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定) 転送タイプ →“TEXT” コード変換 →“配信側” 転送グループID→“xxx” メモする (左側が拡張設定) EBCDICコードセット→IBM英小文字拡張 EBCDICコードセット→カナ文字</p>	<p>配信管理情報の転送グループID→転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報がつながっているか確認する</p>
5	3	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →“通信相手のホスト名”をダブルクリック</p> <p>詳細ホスト情報には、通信相手の属性を設定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定) ホスト種 →“AS/400” 漢字コード種→“IBM” JIS年度 →“83JIS”</p>	<p>配信管理情報の転送グループID→転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報がつながっているか確認しましょう。</p>	
5	4	<p>WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →“通信相手のホスト名”をダブルクリック</p> <p>詳細ホスト情報には、通信相手の属性を設定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定) ホスト種 →“AS/400” 漢字コード種→“IBM” JIS年度 →“83JIS”</p>	<p>配信管理情報の転送グループID→転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報がつながっているか確認しましょう。</p>	

確認 1	確認 2	チェック1	チェック2	チェック3
5	5	Windows側の配信ファイル内にJIS第一水準、JIS第二水準以外の機種依存文字があります。 例 丸囲い数字・① (0x8740) ローマ数字・Ⅱ (0x8755 or 0xFA4B) 旧字・黒 (0xFC4B) 略字・罫 (0x878A) 特にローマ数字は、(見た目が同じでもバイナリでは)2種類あります。 HULFTの外字変換の設定を施し、再度テストを実施してください。 参照 HULFT7 Windows アドミニストレーション・マニュアル 3.9 外字テーブルについて 3.4.4 各項目の説明 外字テーブル使用(gajifile)		
5	6	WindowsのHULFT管理画面 →システム管理(M) →詳細ホスト情報(H) →“通信相手のホスト名”をダブルクリック 詳細ホスト情報には、通信相手の属性を設定します。 下記設定となっているか確認しましょう。 (左側が基本設定) ホスト種 →“AS/400” 漢字コード種→“IBM” JIS年度 →“83JIS”	配信管理情報の転送グループID→転送グループ情報のホスト名→詳細ホスト情報が つながっているか確認しましょう。	